

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：

学域名：

部局長名：

農学部

環境生命自然科学学域(農)

一瀬勇規

目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等
①教育領域	関連する 中期計画の番号	
		教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. R8年度の入学定員増に向け、一般選抜前期日程、および学校推薦型選抜において、志願倍率2.0以上の志願者数を確保する。他学部の協力を得ながら開講予定の授業科目を含む新カリキュラム体制を整備するとともに、その魅力を高校生に対し情報発信する。	(1-3)(2-2)	1. 学校推薦型選抜では募集方法Aで18名の出願(定員の3.0倍)があり、7名を合格とした。また、募集方法Bでは定員を4名増員の23名に対し、62名の出願(定員の2.7倍)があり、23名を合格とした。一般選抜前期日程では定員を82名から100名に増員したが、志願倍率の隔年変動により倍率は1.9倍に留まった。一方、R8年度から開始する5プログラム制カリキュラムの整備を行なった。特にプログラム横断型デジタル農学モジュールの科目においては工学部の、国際展開モジュールの科目においては経済学部、法学部の協力を得て、新規科目の設定を行なった。また、令和8年度から開始する、5プログラム制と入学定員増について、新HPで案内するとともに県内10高校を訪問して周知を図った。
2. 適切な入学者選抜を実施し、リーダーシップを育成する。	(2-2)(4-1)	2. 学校推薦型選抜募集方法Aの合格者に対する入学前教育と、INAFプログラムでは5名の留学生に対する半年間の入学前教育を実施している。日本人学生も受講するINAFセミナーでは食と環境に関わる国際共通課題の解決に向けた人材の養成を図っている。
3. 社会ニーズと将来構想に基づくカリキュラム改革を実行する。	(4-1)	3. R8年度から学科名を「総合農業科学科」からより適切な「農学科」に変更するとともに、現在の4コース制から5プログラム制にカリキュラム改革を行うこととした。
4. 日本人学生と外国人留学生が共に学修する多文化共修環境を創出・実践する。	(7-1)	4. タイ国カセサート大学と協働して夏季短期海外研修を行い、14名の農学部生を派遣した。カセサート大生10名を海外インターンシップ生として受入て、多文化共修を実践した。
5. 教育の質向上に向けた教職員の能力開発、研修プログラムを実施する。	(3-1)	5. 学生評価の高い教員の授業ピアレビューを実施し、授業スキルの上昇に資した。また、教員職員免許を取得希望の学生を支援するため、教職課程のFD研修会を実施した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	
		研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	
		社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 公開シンポジウム及び公開講座を開催する。	(1-1)	1. 令和7年度の公開講座として7/12の「生殖を考えよう」を開講した。また、令和7年度の地域活性化システム論として10/18に「和牛の聖地・岡山県を支える畜産技術と取り組み」、11/8に「大規模山林火はなぜ起こる？どう防ぐ？」、12/20に「農業のスマート化や異業種融合は地域にどのように受け入れられるか？」を開催し、いずれも多数の参加者を得て、活発な討論が行われた。
2. 山陽圏フィールド科学センター(FSC)等により地域連携を推進する。		2. FSCとして半期を通して「育てて食べよう美味しい夏野菜 一家庭菜園のツボ2025ー」、FSCジュニア講座として7/26に「牛について知ろう 一牧場で学ぶ畜産ー」を開講し、一般市民、児童に対して農学を体験できる機会を提供し、農学に対する関心を高めた。また、FSCの生産物は、所内の販売所、近隣のスーパーマーケット等で販売し、好評を得た。
3. グッドジョブセンターとの連携を強化し、福祉的雇用の促進を促す。		3. 従来通り、FSCの生産物販売の一部を担当して頂き、「農業による福祉的雇用の促進」・「福祉的農業の確立」に関する取り組みをすすめた。令和9年度に改修予定の農学部4号館にグッドジョブセンターの方々に使って頂く部屋を準備している。
4. 農学を軸とした地域共創を支援する。		4. 地域中核大学イノベーション創出環境強化事業での農業用犬型ロボットの開発に協力するとともに、知見を活用して、久米南町をモデルケースとした地域振興の取り組みをすすめた。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	
		管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等
1. 学部内の管理運営組織としてのコース制を維持しながら、教育を行うプログラム組織を構築する。	(11-1)	1. 教育プログラム組織を構築した。ハラスメント防止対策も含め、一人ユニットを解消し、複数教員から構成される教育ユニットを編成し直した。
2. 学部内委員会の実質化と、教員の負担軽減のため、従来の委員会制度を再編する。		2. 従来の入試委員会と広報委員会を合わせ「入試・広報委員会」とした。また、ハラスメント防止委員会を委員会ではなくハラスメント防止員とし、ハラスメント事案の再発防止対策を行った。
3. 学科名称変更、入学定員増員に備え、十分な志願者数を確保するために広報活動を強化する。		3. 学科名を「総合農業科学科」から「農学科」に変更し、社会のニーズに答え、入学定員を120名から142名に増員した。そのことをHPで公表・広報するとともに県内の10高校を訪問して説明した。
4. 女性教員昇任制度を活用し、R10目標を上回る女性教授の在職割合を達成する。WTT教員採用制度等を活用し、女性教員の実数を増加させ、今年度の採用の30%以上が女性教員となるよう取り組む。		4. R8年1月に1名の女性教員(准教授)が教授に、1名の女性教員(講師)が准教授に昇任した。現時点において教授のうち12.9%が女性となり、R10年度の目標(10.7%)を既に達成した。総計では58名の教員中10名(17.2%)が女性で目標(21.7%)にはまだ届かないが、WTT教員が2名おり、来年度も1名増加予定であるので、着実に目標に近づきつつある。
5. ハラスメントの再発防止を含め、心理的安全性を担保しながら組織としての創造性の向上に取り組む。		5. ハラスメントの防止対策の一環として、学生支援部門の松井めぐみ教授にハラスメント研修をしていただいた。今後、学部として更なる意識改善を進めていく。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。